



開物成務

5月25日（月）の創立記念日に子どもたちに話した内容（お昼の放送）です。

今日は、開成小の創立記念日、開成小の誕生日です。これから、私たちの開成小のことについてお話しします。みなさんに開成小のすばらしさを知ってほしいのです。

まず、歴史についてお話しします。開成小は、今から145年前の明治8年5月25日に誕生した歴史と伝統のある学校です。当時は、民家、普通の家を使わせていただいていた。児童数は42名、男の子は35名、女の子は7名だったそうです。それから145年、開成小を卒業した人は、14497人になります。

次に、開成小の卒業生、ゆかりのある文学者についてお話しします。開成小の校庭には「古里の 小学校の鐘の音を ふと聞きしより 涙流るる」と刻まれた句碑があります。探してみてください。この歌は、開成小が生んだ文豪、久米正雄さんの詠んだ歌です。久米正雄さんは、郡山を舞台とする文学作品をたくさん書いている文豪です。久米正雄さんは、開成小で学んだ後、現在の安積高校に進学し、東京大学に入学します。同級生には有名な文学者の芥川龍之介さん・菊池 寛さんがいます。

もう一人は、宮本百合子さんです。宮本百合子さんは、安積開拓を国のプロジェクトに立ち上げた偉人である中条政恒さんの孫にあたります。小学校の頃からたくさん物語を聞いて育ち、夏休みは開成山を訪ね過ごしたことが、文学へのめざめを促したと考えられています。開成山を舞台とした作品など、数多くの作品を残しています。開成小には、ゆかりのあるすばらしい文学者がいます。

次に、開成小の校名の由来についてお話しします。開成という名前は、「開物成務」という言葉に由来します。中条政恒さんが生涯大切にされた言葉でもあります。「人間が本来持っている力を発揮し、いろいろな問題を解明し、物事を立派に完成させること」という意味があります。開成小の建学の精神であり、開成小に学んだみんなが心に刻んできた言葉です。校長先生は、みなさんにもこの言葉を大切にしてください。「力 考えを広げて学ぶ子」「イ いたわりあって生きる子」「セイ せいっぱいがんばる子」開物成務の心を身に付けた子どもに育ててほしいと思っています。

最後に、校歌についてお話しします。開成小の校歌は「みどりの松」で始まります。開成小には、その昔、学校東側にそびえ立つような2本の松の木があり、「緑の松門」となっていました。学校のシンボルでした。たくさん子どもたちがその緑の松の門をくぐり通っていたのです。昭和54年には、東側の正門付近に赤松・黒松が植樹され、校庭西側には、大きな「希望（のぞみ）の松」がみなさんを見守ってくれています。みなさん、希望（のぞみ）の松とは、どの松だと思えますか、校庭にあります。

開成小には、もっともっとお話ししたいすばらしい歴史があります。そこで、「開成小クイズ」を作りました。後で「学校だより」に載せますので、挑戦してみてください。また、明日26日から29日まで、お昼休みの時間、南校舎3階の松桜館を、4年生以上を対象に開館します。子どもは入場料無料です。開成小の歴史を知ることができる様々なものが展示してある小さな博物館です。見てみたいという人は来てください。換気は十分にしますがもちろんマスク着用です。入れるのは10名程度です。いっぱいになっていたらごめんなさい。次の日に来てくださいね。

これから、私たちの校歌を流します。今は給食の時間ですので、歌うことはできません。歌詞をよく聞いてください。「みどりの松もさわやかに」「澄む青空に影うつし」ふるさと開成のすばらしさを歌っています。「ゆたかな夢よ 高くとべ 清く正しく 美しく」「希望（のぞみ）にもえる 瞳あげ すすめ 開成小学校」みなさんを励ます応援歌でもあります。では聞いてください。（校歌CD流す）話を最後まで聞いてくれてありがとう。